



しもあか

二輪草学びのエリア

(赤塚三中・赤塚小・赤塚新町小・紅梅小・下赤塚小)

令和7年 9月 30日

板橋区立下赤塚小学校

校長 菊池 宏一

学校便り NO. 6

ホームページ

<http://www.ita.ed.jp/edu/simoaes/>

学びの秋

副校長 門馬 孝宏

10月を迎え、秋風が心地よく、校庭や周囲の木々にも少しずつ色づきが見られる季節となりました。子供たちの活動も活発さを増し、学びの秋ならではのさまざまな取り組みが広がっています。

秋といえば、「読書の秋」が思い浮かびます。本校でも国語の授業や読書活動を通して、子供たちが本と向き合い、その世界を楽しむ姿が見られています。4年生は、国語で新美南吉の「ごんぎつね」を学習します。先日、物語に登場する彼岸花がちょうど校内に咲いており、子供たちは実際に目にすることで、作品の情景をより身近に感じることができました。赤く鮮やかに咲く花を前にして、教科書の中の言葉が現実の風景と結びついたとき、子供たちの心に物語の世界がぐっと広がることと思います。私自身も、この機会を経て、普段の街並みの中で彼岸花を探すようになり、文学と日常がつながる瞬間の豊かさを改めて感じました。有名な南吉文学の情景の美しさを、子供たちが自分の目と心で確かめ、味わうことができる機会を大切にしていきたいと考えています。こうした体験を通じて、言葉の力や表現の奥深さを知り、読書を通じた学びがより豊かに広がっていくことを願っています。



そして秋は「スポーツの秋」でもあります。本校では、今年度、コロナ禍以前に行っていた数多くの取り組みを復活させ、運動会をリニューアルして開催いたします。団体競技、選抜リレー、応援団、未就学児競技、PTA競技など、学校全体が一体となる多彩なプログラムを再び取り入れます。練習の段階から、子供たちは声を掛け合い、励まし合い、時には意見がぶつかり合う中で、少しずつ自分の役割を果たそうと努力しています。そこに見られるのは単なる体力や技術の向上だけでなく、「仲間と協力する喜び」「最後までやり抜く粘り強さ」といった目に見えにくい力です。

9月半ばに開催しました道徳授業地区公開講座では、元東京都小学校道徳教育研究会会長であり、現在は跡見学園女子大学で教職課程を担当されている北村博先生をお招きし、「非認知能力」と「自己肯定感の向上」についてご講演いただきました。非認知能力とは、困難に直面してもあきらめない力、他者を思いやる心、自分を信じる気持ちなど、学力テストでは測ることのできない人間的な力を指します。北村先生は、こうした力が自己肯定感を支え、子どもの成長に不可欠であることを強調されました。まさに運動会は、この非認知能力を育む絶好の場です。勝敗に一喜一憂しながらも仲間と励まし合い、全力を尽くす姿の中に、子供たちが「自分は仲間の中で大切な存在だ」と感じ、自信を深めていく瞬間が数多く生まれるはずです。今年の運動会を、保護者や地域の皆様にもぜひその視点で見守っていただきたいと願っております。

さらに、秋には遠足や社会科見学などの校外での学びの機会も豊富です。実際に出かけて見聞きする体験は、教室での学びを現実の世界に結びつける大きな機会です。9月下旬に、父親の会主催による「学校に泊まろう」が開催されました。本校ホームページでもご紹介しておりますが、異学年交流の場としても、子供たちにとって大変充実した体験となりました。公共の場でのマナーを身につけたり、友達と協力して課題を解決したりする経験は、子供たちの社会性を育み、自己肯定感を高めることにもつながります。同様に、運動会においても父親の会の皆様、そしてPTA執行部の皆様には毎年多大なご協力をいただいております。準備や片付け、当日の受付、安全管理や来校者の方の誘導など、多くの方々の支えがあってこそ、運動会をはじめ本校の各種行事が成り立っております。こうした温かいご支援によって、子供たちの学びと成長が一層充実しておりますことに心より感謝申し上げます。

読書の秋、スポーツの秋、そして体験活動の秋。子供たちが学ぶ楽しさを感じながら、自分の力を信じて成長していけるよう、教職員一同、しっかりと指導してまいります。これからも、保護者の皆様、地域の皆様のお力添えをいただきながら、子供たちの成長を見守っていただければ幸いです。

10月の予定

※SC・・・スクールカウンセラー

日	月	火	水	木	金	土
			1 都民の日	2 安全指導日 なかよし班活動	3 校内研究授業 (2-3)	4 下小こどもまつり
5	6 朝会 ICS委員会	7 NIEタイム SC相談日	8 S時程 4時間授業	9 セーフティ教室 (1年) 保健指導	10 NIEタイム 社会科見学 (4年)	11
12	13 スポーツの日	14 NIEタイム 避難訓練 SC相談日	15 委員会活動	16 校内研究授業 (3年)	17 NIEタイム 遠足(2年)	18
19	20	21 NIEタイム SC相談日	22 S時程 4時間授業	23	24 水曜時程 運動会 前日準備	25 土曜授業プラン 運動会
26 運動会予備日	27 運動会 振替休日	28 読書 SC相談日 読書週間 (始)	29 クラブ活動	30 読書	31 NIEタイム	

※予定が変更される場合があります。ご了承願います。

運動会について 10月25日(土)

10月25日(土)に運動会が実施されます。各学年の徒競走や団体演技、団体競技のほか、全校ダンスや大玉転がしなども実施します。今年度はPTA競技や未就学児の参加できるプログラムもございます。8時45分に開会式を始める予定です。当日、雨天等の理由で延期する場合は10月26日(日)に実施となります。延期の場合はすぐメールまたは、ホームページにてお知らせいたします。詳細は、先日配布した「運動会のお知らせ」をご覧ください。

昼食について

昼食は、保護者の方が児童の分も持ってきていただくようお願いいたします。保護者が来られないなどの場合は、児童に持たせていただき、冷房の効いた教室での管理となります。

また、昼食の際に児童と保護者の方との集合場所をあらかじめ決めておいていただくか、児童席までお迎えいただき、合流ができるようご家庭でお話しいただけると幸いです。よろしくお願いいたします。

研究授業について

10月3日(金)には、体育の授業で、2年3組が研究授業を行います。また、10月16日(木)には、3年生(全クラス)が授業を行います。研究授業があるクラスは、下校が遅くなります。ご確認くださいませよう、お願いいたします。

学校だより 9月号 全国学力・学習状況調査分析号
令和7年度全国学力・学習状況調査における本校の現状

校長 菊池 宏一

令和7年4月17日に、6年生を対象とした全国学力・学習状況調査が行われました。今年は国語、算数、理科の3教科での実施で、各教科における平均正答率は下記の通りです。

教科	全国平均(%)	都平均(%)	本校(%)	全国との差	都との差	無回答 (全国)	無回答 (都)	無回答 (本校)
国語	66.8	70	68	+1.2	-2	3.3	4.1	6.2
算数	58.0	64	63	+5.0	-1	3.6	3.9	2.8
理科	57.1	60	60	+2.9	±0	2.8	3.7	2.1

各教科で全国平均は上回りましたが、都平均と比較すると、国語と算数が平均に届かない結果となりました。無回答率を見ると、1時間目に実施した国語の無回答率が高く、回答を問題用紙に書いてしまった児童が複数いたためと考えられます。

国語では、「目的に応じて文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけることができるかどうかを見る問題」に課題が見られました。問いに関係する文章や図表が複数のページにまたがって提示されたことで、必要な情報を見つけられず、無回答や誤答となっていました。文章を読む目的を明確にして必要な情報を捉えること、伝えたいことの根拠を明確にして書くことを意識させることが今後の課題です。

算数では、「B 図形」がよくできていました。「D データの活用」を見る問題では、課題に応じた資料を選択する問題の正答率が、全国平均（31.0%）と都平均（34.0%）に対し、本校は27.7%でした。帯グラフと棒グラフの特徴を理解し、割合を読み取る問題でしたが、先に提示されている帯グラフの情報を元に考え、誤答となる児童が多く見られました。データを活用することは、日常生活において必要な力の一つです。今後は、提示されたデータを考察し、自分の考えを表出させる活動が必要であると考えます。

- (2) あいりさんは、自分たちが住んでいる都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかを調べています。調べていると、2013年と2023年について、右のグラフ2とグラフ3を見つけました。



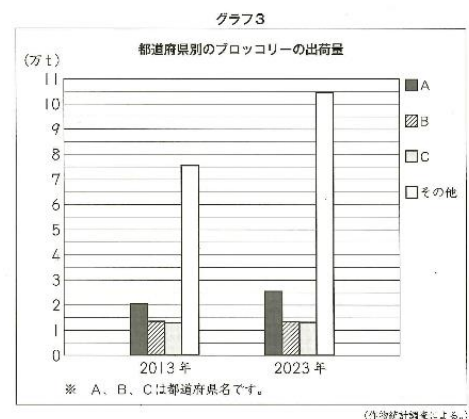
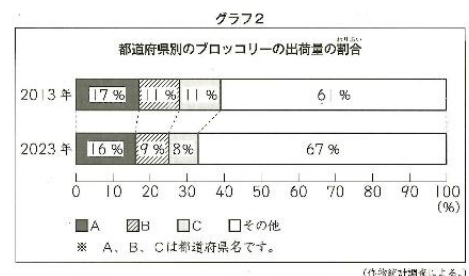
グラフ2とグラフ3を見つけたけれど、どちらか一つのグラフを見れば、都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、増えたかどうかわかります。

2023年の都道府県Aのブロッコリーの出荷量が、2013年より増えたかどうかを、下のアとイから選んで、その記号を書きましょう。

また、その記号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。そのとき、どちらのグラフのどこに着目したのかがわかるようにしましょう。

ア 2023年は2013年より増えた。

イ 2023年は2013年より減った。

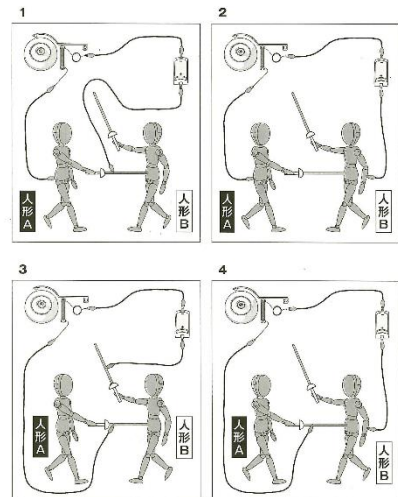


理科では、身の回りにある金属（アルミニウム、鉄、銅）と電気の関係や、電気の回路の仕組みに関する問題に課題が見られました。また、電磁石の強さとコイルの巻き数との関係も、課題が見られました。実験を行うにあたっては、①問題を作る→②根拠のある予想をする→③方法を考える→④実験→⑤結果を記録する→⑥考察→⑦結論を導く→⑧振り返る という学習のサイクルを徹底してまいります。また、科学的な探究プロセスを通して身に付けた知識を活用することができるような学習活動の充実を目指します。

(2) 「人形Aの剣を人形Bに当てたときだけ、かね（ベル）が鳴る」のは、どのような回路でしょうか。下の 1 から 4 までの中から 1 つ選んで、その番号を書きましょう。

(1) アルミニウム、鉄、銅の性質について、下の 1 から 4 までの中からそれぞれ 1 つ選んで、その番号を書きましょう。同じ番号を選んでもかまいません。

- 1 電気を通し、磁石に引きつけられる。
- 2 電気を通し、磁石に引きつけられない。
- 3 電気を通さず、磁石に引きつけられる。
- 4 電気を通さず、磁石に引きつけられない。



全国学力・学習状況調査では、生活習慣等を調査する質問紙調査も行われました。いくつか気になる結果が出たので紹介します。数値は、肯定的な回答（当てはまる・どちらかといえば当てはまる）の合算値です。

質 問 事 項	全国平均(%)	都平均(%)	本校(%)
自分にはよいところがあると思いますか	86.9	87.2	79.4
将来の夢や目標を持っていますか	83.1	81.6	71.6
地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	81.3	79.0	69.6
5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	77.8	79.4	68.6
授業で学んだことを、次の学習や実生活に結び付けて考えたり、生かしたりすることができると思いますか	82.5	82.1	72.6
学級活動における学級での話し合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	80.8	79.6	60.8
国語の授業で、目的に応じて説明的な文章を読み、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見つけていますか	79.1	79.6	71.5
算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていますか	65.5	67.7	51.0
理科の授業の内容はよく分かりますか	88.9	88.3	74.5
将来、理科や科学技術に関する職業に就きたいと思いますか	30.0	32.5	20.6

本校の傾向として、自己肯定感に関する質問では肯定的な回答が全国や都平均に比べて低い数値となりました。また、社会貢献や自己の役割を果たすことに関する質問も、低い数値となりました。実際には地域での募金活動に取り組むなど、自分にできることを考えて行動する姿が見られます。

将来の夢や就きたい職業などに関する質問では、全国や都平均に比べ低い数値となっています。今後、キャリア教育の充実を図ることが必要であると考えます。

5年 研究授業 体育科「つなげ！決めろ！アタック！」 5年2組 杉山 葉梨

5年2組担任の杉山葉梨です。9月12日（金）に体育科でキャッチバレーボールの2時間目を研究授業として実施しました。本授業では、「どのようなトスをしたらアタックしやすいか考えよう。」をめあてに、全員がボールに触れてから攻撃するというルールを設け、すべての児童が得点に関わることができるよう工夫しました。また、「勝ち負け」ではなく、「自分やチームの小さな成長」に焦点を当てることで、運動そのものの楽しさを味わえるように授業を構成しました。



今回は、「運動やスポーツに親しむ子」を目指し、指導の個別化に焦点を当てた授業を展開しました。現在、体育科の校内研究においても、「指導の個別化」を主たる研究テーマとして掲げ、児童の実態や学びのプロセスに応じた指導の工夫について継続的に研究を進めています。

「指導の個別化に関する手立て」としては、動きのポイントを整理したチェックカードを用いて、児童一人一人が自分の課題に気づき、改善を意識しながら取り組めるようにしました。さらに、チェック後には「確認タイム」を設け、児童が自分のプレーを振り返ることで、次時への改善意欲や学びへとつなげられるようにしました。

研究授業当日のゲームでは、仲間と声をかけ合いながらボールを回す姿が多く見られ、チームでの連携を楽しむ様子が印象的でした。学習カードのふり返しには、

「トスのポイントが分かった」「高くトスを投げたら、友達がアタックを決めてくれてうれしかった」などの反応があり、自分の成長を実感する児童の姿が見られました。また、「次はアタックを上手に打てるようになりたい」「もっと友達と声をかけ合ってやりたい」と、さらに意欲的に取り組もうとする声も多く聞かれました。



トスやアタック、ボールを持っていないときの動き方を学習した後は、チームごとに作戦を立ててゲームに取り組みました。最終の7時間目の授業では、トーナメント形式での試合を行い、各チームが白熱した試合を展開しました。試合中には、「ナイス！」という掛け声だけでなく、「大丈夫」「つぎつぎ」といった友達を励ます言葉も飛び交い、仲間同士の温かいコミュニケーションが育まれている様子を感じられました。授業後には、「負けてしまったけれど、チームで考えた作戦はできたから良かった」といった声もありました。

今回の授業を通して、子どもたちが技術面だけでなく、仲間と支え合いながら協力する大切さを実感できたことを嬉しく思います。今後も子どもたちの小さな成長を大切にしながら、楽しく充実した体育の授業づくりに努めてまいります

